

日本物理学会若手奨励賞（領域1 2）授賞規定の改訂
（平成25年9月のインフォーマルミーティングで承認）

現行（平成24年度（第7回若手奨励賞）まで適用）

2. 応募資格

応募の時点で日本物理学会会員であること。

原則として受賞年度の3月31日現在において40歳以下であること。

ただし、出産、育児休暇により研究を中断するなどの事情がある場合は、年齢制限を緩和することができる。

改訂後（平成25年度（第8回若手奨励賞）以降適用）

2. 候補者資格

応募の時点で日本物理学会会員であること。

原則として受賞年の4月1日現在において40歳以下であること。

ただし、出産、育児休暇により研究を中断するなどの事情がある場合は、年齢制限を緩和することができる。

日本物理学会若手奨励賞（領域1 2）授賞規定細則の改訂
（平成25年9月のインフォーマルミーティングで承認）

1. 審査委員会

現行（平成24年度（第7回若手奨励賞）まで適用）

審査委員会は、授賞時の領域代表、前領域代表、次期領域代表および、領域代表が委嘱する6名の委員の計9名で構成し、領域代表（審査時は領域副代表）が委員長となる。この委員氏名に関しては、次の年の9月のインフォーマルミーティングにおいて報告するものとする。領域代表が委嘱する審査員の任期は2年とし、任期後3年間は再任できないものとする。ただし経過措置として、初年度は領域代表が委嘱する6名のうち半数は任期1年とする。

- 1) この規定にかかわらず3年以内に審査委員を経験した者が次期領域代表に選ばれた場合、次期領域代表の際は審査委員を務めるが、領域代表及び前領域代表の時は、直接審査に加わらないこととする。
- 2) 現に審査委員の任期中の者が次期領域代表に選ばれた場合は、例外的に前領域代表までの任期計4年間を務める。
この改訂は、平成23年3月から適用する。

改訂後（平成25年度（第8回若手奨励賞）以降適用）

審査委員会は、授賞年度の領域副代表、領域代表、次期領域副代表および、領域副代表が委嘱する6名の委員の計9名で構成し、領域副代表が委員長となる。この委員氏名に関しては、その年度で任期を終了する委員について、次の年度の9月のインフォーマルミーティングにおいて報告するものとする。領域副代表が委嘱する審査員の任期は2年とし、任期後3年間は再任できないものとする。ただし経過措置として、初年度は領域副代表が委嘱する6名のうち半数は任期1年とする。

この規定にかかわらず、3年以内に審査委員を経験した者または現に審査委員の任期中の者が次期領域副代表に選ばれた場合、この期間の合計3年までは審査委員を務め、それ以降は領域代表の任期が終わるまで、オブザーバーとして審査委員会に加わる。また、オブザーバーが出た場合、領域副代表は委嘱する委員を増やして、審査に加わる審査委員の人数を合計9名とする。さらに、領域副代表がオブザーバーとなった場合は、審査委員長は委員から互選する。

3. 応募方法

現行（平成24年度（第7回若手奨励賞）まで適用）

応募は自薦および推薦による。下記の書類の正本1部＋コピー9部を領域代表に郵送する。

- (1) 申請書（様式は4の通り）
- (2) 履歴書（年齢を明記すること）
- (3) 発表論文リスト（掲載決定済みのものを含む）
- (4) 対象論文のコピー（5年程度以内のものに限る）
- (5) 日本物理学会の当該領域における発表概要のコピー（登壇者または筆頭者でなければならない。発表年春秋を明記。5年程度以内のものに限る）
- (6) 自薦書または推薦書（2000字以内）
- (7) その他必要と思われる書類（対象論文と合わせて3編以内）

なお、推薦者は同一の候補者を同じ年度に複数の領域に推薦することはできない。また、同一の領域に複数名の候補者を推薦することは出来ない。自薦の場合は同じ年度に複数の領域に応募することはできない。

改訂後（平成25年度（第8回若手奨励賞）以降適用）

応募は自薦または推薦による。下記の書類の電子ファイルを指定されたホームページにアップロードする。

- (1) 申請書（様式は4の通り）
- (2) 履歴書（年齢を明記すること）
- (3) 発表論文リスト（掲載決定済みのものを含む）
- (4) 対象論文の別刷またはその写し（3編以内。5年程度以内のものに限る）
- (5) 日本物理学会の当該領域における発表概要またはその写し（登壇者または筆頭者でなければならない。発表年春秋を明記。5年程度以内のものに限る）
- (6) 自薦書または推薦書（2000字以内）
- (7) その他の参考書類（希望者のみ提出。論文を追加提出する場合は対象論文と合わせて3編以内）

なお、推薦者は同一の候補者を同じ年度に複数の領域に推薦することはできない。また、同一の領域に複数名の候補者を推薦することはできない。自薦の場合は同じ年度に複数の領域に応募することはできない。

4. 申請書の様式

現行（平成24年度（第7回若手奨励賞）まで適用）

文書作成年月日
候補者氏名
候補者所属（勤務先，身分および所在地）
候補者連絡先（電話，FAX，電子メール）

（推薦の場合）

推薦者氏名
推薦者所属（勤務先，身分および所在地）
推薦者連絡先（電話，FAX，電子メール）
候補者との関係
研究題目
審査希望領域名 領域1 2

改訂後（平成25年度（第8回若手奨励賞）以降適用）

以下の項目を記入する（自由様式）。

文書作成年月日
候補者氏名
候補者所属（勤務先，身分および所在地）
候補者連絡先（電話，FAX，電子メール）
審査希望領域名（領域1 2とする）
受賞対象の研究題目

（推薦の場合は以下も追加する）

推薦者氏名
推薦者所属（勤務先，身分および所在地）
推薦者連絡先（電話，FAX，電子メール）
候補者との関係